刑事・犬養隼人シリーズ最新作！
どんでん返しの帝王が放つ

ドクター・デスの遺産

〈連載㊺〉

中山七里

〈あらすじ〉犬養刑事は安楽死を決行している疑いのある「ドクター・デス」を追跡し、過去に「ドクター・デス」のサイトを訪問した人間を突き止めようとしていくが、彼らは一様に口を閉ざすのだった。

「元のご主人から援助はなかったんですか」

聡子は不意に顔を歪めた。

「ありませんね。元々、他に女を作って出ていった自分勝手な男で、正人のことも二十歳を過ぎたら一人前だとか言って関わろうとしませんでしたから」

聡子の物言いがちくりと胸に刺さる。他の女にうつつを抜かして家族と離別したのなら、犬養も立場は同じだ。気のせいか隣で黙っている明日香も、意地の悪い視線を自分に浴びせている。

「闘病生活は長かったんですか」

「二年ほど……それでも最期が眠るように安らかだったので、いくらか救われました」

最期は眠るように、という言葉に胡散臭さがあった。

「ドクター・デスという人物をご存じですか」

不意打ちのような質問に、聡子はしばらく黙り込む。じっと犬養の目を覗き、質問の真意を探ろうとしている。

「そんな人、知りません」

「岸田さん。無駄な質疑応答で時間を潰す気はないんです。〈ドクター・デスの往診室〉に、あなたがコメントを投稿したのは、もう分かっている。IPアドレスを辿ってあなたに行き着きましたからね。アカウント名は〈クレバーチャイルド〉。聡い子、とでもいう意味なのでしょうか」

更に犬養が直視すると、聡子は視線を逸らした。

「あなたはドクター・デスにどんなコメントを送りましたか」

「忘れました。きっと管理人さんに対して批判的なコメントを投稿したんだと思います」

「ところが、そのコメントを投稿してからしばらくして、あなたの息子さんは自宅で亡くなった。医師が駆けつけた時には既に遅く、正人さんの遺体は突然死の徴候を示していた」

「はい。拡張型心筋症の患者さんには時々起こることらしいです。でも、死に顔はとても安らかだったので、最期は苦しまずに逝けたと思います。それが唯一、救いといえば救いです」

不治の病と闘っている息子を安楽死させたい

イラスト・西川真以子

「こっちを向いてください、岸田さん」

ここからが攻めどころだ。視線を逸らせてなるものか。横で明日香が非難めいた視線を浴びせるのも構わず、犬養は強引に聡子の顔をこちらへ向けさせる。

「死に顔はとても安らかだった。なるほど、それは何よりでした。しかし、その安らぎはドクター・デスによってもたらされたものではありませんか。拡張型心筋症についてはわたしも調べました。確かにその症例であれば突然死もあり得るでしょう。しかし、ドクター・デスの手に掛かれば、やはり同じ状態で死を迎えさせることが可能です。彼の方法であれば、患者を眠らせたまま殺すことができる。解剖しない限り、突然死にしか見えない」

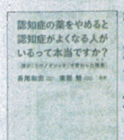
聡子は次第に恐怖の色を浮かべ始める。

「病状は一向に好転せず、正人さんは苦しむばかりだった。しかもあなたは正人さんの入院治療を継続することができず、やむなく自宅療養に切り替えたが、それは正人さんの苦痛を一層強めるだけの結果になった。経済的にも精神的にも追い詰められたあなたは、ある日ネット上でドクター・デスの存在を知る。そして彼にコメントを送った。その内容は、『自分にも不治の病と闘っている息子がいるが、もう限界なので安楽死させてやりたいと思っている』。そして何度かのやり取りで先方と契約に至ると、この部屋にドクター・デスを招き寄せた。あなたは正人さんを彼に委ね、彼が少しずつ死に近づいていくのをじっと見ていた」

（つづく）

著者インタビュー

「症状にかかわらず薬を増量する日本の認知症医療。こんな治療は他の病気ではありえません」



認知症の薬をやめると認知症がよくなる人がいるって本当ですか？

長尾和宏氏

認知症治療薬の代名詞として知られ、発売から15年が過ぎたアリセプト。

しかし、この薬の服用をやめるだけで、驚くほど症状がよくなるケースがあることをご存じだろうか。

「アリセプトは非常によい薬で、認知症治療薬としてけっして否定されるものではありません。問題は、その使用量です。アリセプトは脳内のアセチルコリンを増やす薬であり、認知機能の維持に効果を発揮する一方、人によっては歩行障害やパーキンソン症状が表れたり、暴力や暴言が起こることもあるんです」

そのため、個々の患者の状態を見ながら、薬の量を調整することが不可欠であると長尾医師は言う。しかし、日本における認知症治療の実態はまったく違っている。

現在、保険が適用される認知症治療薬にはアリセプトの他にレミニールやメマリー、イクセロンパッチなどがあるが、これらの薬には増量規定が定められているのだ。

「アリセプトなら開始量は3ミリグラムですが、2週間後には必ず5ミリグラムに増量することという決まりがあるんです。5ミリグラムに増やして患者さんの調子が悪くなれば、減量して様子を見るのは当たり前のこと。しかし、認知症治療薬は必ず増量しなければならない。こんなおかしな治療は他の病気ではありえません」

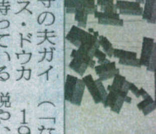
〈13ページにつづく〉

ながお・かずひろ　医療法人社団裕和会理事長、長尾クリニック院長。1984年東京医科大学卒業。日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事、東京医科大学客員教授（高齢総合医学講座）なども務める。「家族よ、ボケと闘うな！」「胃ろうという選択、しない選択」など著書多数。

今日の新刊

チューリップ

ダシール・ハメット著　小鷹信光訳



いつものように目覚めたマーガレットは、階下に下りて黒ずくめの男が台所から出ようとしているのに気づいた。男は留守の夫ガイに、レオニダス・ドウカスがホテルで待っていると伝えろと言って去った。マーガレットの友人は、悪事のかぎりをつくしているならず者の夫をもった彼女に同情していたが、彼女は夫の金色に光る勇気と強靱が、あらゆる犯罪を責めるべきでない悪事に変えると、むしろ誇りをもっていた。ガイは6日後に帰ってきたが、ドウカスに脅される夫を見て、マーガレットの心のなかに変化が……。（「ならず者の妻」）

1920年代の犯罪小説や、遺作となった表題作など10編の短編。（草思社　2200円）

半ゴル。半額でできるゴルフコース　早いもの勝ち！
※HP上に表示されている料金の半額になります。
〈詳細はホームページ〉創心企画（株）ゴルフ事業部　☎03-5301-0555
半ゴル。検索　http://www.han-gol.com

屋外に設置できる透明のチラシケース販売中！
フタのデザインをオリジナルで作成できます！【デザイン作成込みの料金です】
A4チラシ用　2,500円/1個（＋発送費）　A4を三つに折ったパンフレットを入れるミニサイズもあります。
フタを開いてご自由にお取りください　フタ部分をオリジナルデザインで作成できます！
プリントショップ ふくプリ　http://www.fukupri.com　☎03-5301-0220　ふくプリ 検索

「電話代行って何？」　こんな方に大変便利　社員を雇わず電話応対できる　お好きな市外局番で発着信できる

電話代行　【新規オープン】渋谷赤坂ほか◎話題のバーチャルオフィス◎電話システム即日対応可　JNS 5728 2894
パート・アルバイト　男 モデル40〜70 素人歓迎10〜35 日払◇海 (3841) 4202
携帯電話　BW東京駅店　au機付5000円　auスマホ初期総額15000円　do SIM5000円　doスマホ初期総額1200円〜　カケホーダイ音声通話無料初期8000円〜　パケ定利用OK　格安データSIM　代引発送可能　東京駅徒歩3分　0120-16-3276
売り・買い　【薬買取】医家薬局向　マコト薬品 5296 0720
チケットを高く買い安く売ります　日本チケット商協同組合 JTA加盟店　五反田チケットセンター 03-3473-3814　新橋ラッキーコレクション 03-3597-1655
薬即現金　秘守　ベスト薬品 (3258) 8568

ゲンダイ案内　お問い合わせは… 創心企画株式会社　ゲンダイ案内 検索　TEL 03-5301-0555　URL http://www.so-shin.co.jp

Daily Chronicle

流されゆく日々

連載9840回

正月休みに読んだ本⑦

五木寛之

（昨日のつづき）

【疲】れたときには、海外のミステリーを読む。チャンドラーや、ハメットや、ガードナーを読んだのは半世紀も昔の若い頃である。『ロング・グッドバイ』などは、まだ書店で見かけるが、ハメットになると探すのに苦労する。これも時代というものか。永遠の古典のようにいわれていた作品も、いつかは地平線のかなたに沈んでいくものなのだ。

この正月には、2冊の文庫を読んだ。一冊ははじめての作品である。ハラルト・ギルバースという作家の『ゲルマニア』（酒寄進一訳／集英社文庫）は、結構ぶ厚い本だ。敗戦前の1944年のベルリンを舞台にした近過去のミステリーで、時代背景がおもしろい。最近は、この手の小説がかなり出てきた。

あのヒトラーの時代を、私たちは年表でしか知らない。ドイツ全体がナチズム一色に染められていたような印象があるが、敗戦まぢかとなると、ドイツ人もある程度めざめてくる。ましてノルマンデー海岸に連合軍が上陸し、ベルリンへの無差別爆撃が日夜つづくと、さすがにヒトラー信仰もゆらいでくる。その辺の国民感情の揺れが伝わってきて、そこがこの長篇の魅力だろう。

PHOTO　石山貴美子

【敗】戦まぎわのドイツにも、かなりのユダヤ系市民が残っていた。ドイツ人と結婚していたり、なんらかのコネのある人間たちである。胸にユダヤの星のマークをつけさせられた彼らの、薄氷を踏むような生活ぶりが丹念に描かれて、ユダヤ人差別の問題が政策だけでなく、市民レベルでの憎悪感情と結びついていたことがよくわかるのだ。ミステリーとしては、連続殺人を追うユダヤ人元警部と、ナチスの将校の動きが今ひとつだが、とりあえず風俗小説として興味ぶかく読んだ。

外国のミステリーを読んで感じるのは、偏執的なまでのリアルな細密描写だ。そのエネルギーが、時にはうっとうしく感じられたりするのだが、とにもかくにもそのエネルギーの強烈さには圧倒され、同時にやや面倒くさい気もするのだ。もっと省略する工夫があってもいいように感じられてくるのである。とりあえず、本筋以外の部分で読ませるというのも才能だろう。ドイツには歴史的な人種的偏見の底流があるのかもしれない。メルケル首相もこれからが大変だろう。

【も】う一冊は、3度目に読んだネルソン・デミルの『王者のゲーム』（白石朗訳／講談社文庫）。3年ぶりくらいで読んだが、ストーリーを忘れてしまっていたので、それなりに楽しめた。ボケの効用というべきか。

（この項つづく）

——協力・文芸企画

製薬会社は、アリセプトには下痢などの消化器症状があるので低用量で使用を開始するが、通常量は5ミリグラムでありそれ以下では効かないと主張しているという。しかし、介護の現場からは薬を増量したとたんに認知症患者の興奮が強くなり大変な思いをしたという報告が後を絶たないという。製薬会社が薬に対する増量規定を定めている限り、医師は簡単には減量しにくい。規定量通りに処方しなければ診療報酬明細書の審査が通らず、薬の代金が医療側の負担になってしまうからだ。

それでも、この歪みに疑問を感じる医師は少しずつ増えている。そして、患者の個別性を重視した治療を目指す医師の多くが支持しているのが、"コウノメソッド"という薬物療法だ。

「名古屋市で開院する河野和彦医師が提唱するもので、アルツハイマー型やレビー小体型など認知症のタイプを正確に見極めながら、漢方的な見方を取り入れた処方をしていきます。例えば、認知症の

患者の個別性を重視したコウノメソッド

周辺症状を陽性と陰性に分け、徘徊や暴力などの陽性症状がある患者さんはまず抑制系の薬剤で落ち着かせ、その後で失見当識など脳の病変による中核症状を治療していきます。そして、無気力やうつ状態など陰性症状の患者さんは、最初から中核症状の治療を行う。薬も、個別性に合わせた微調整を行っていきます」

本書では、長尾医師も実践するコウノメソッドの詳細も解説している。両親や配偶者、そして自分自身が認知症になったときに正しい治療が選択できるよう、ぜひ知識を得ておきたいものだ。

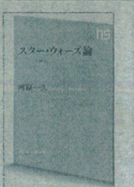
（現代書林　1400円）

いつまでも元気でデイサービス利用を

新書 あらかると

世界的「現象」から「文化」への過程を追体験

スター・ウォーズ論　河原一久著

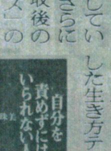


最新作「フォースの覚醒」が話題のスター・ウォーズ。1977年の公開（日本公開は翌年）以来、世界中のファンを熱狂させてきた同シリーズの魅力を考察した映画本。

そもそも第1作「スター・ウォーズ」は、企画の段階で配給交渉権を持っていた映画会社2社が製作費などを懸念して却下。公開前も大失敗作になるとささやかれ、別の作品との抱き合わせで配給された。それが観客動員数全米2位の記録をいまだに保持しているのだ。この巨大なコンテンツが映画史に残してきた革新の足跡をたどり、第1作公開時の世界的「現象」が、「文化」へと発展していく過程を追体験。さらにディズニー社買収後の「スター・ウォーズ」のこれからを展望する。

（NHK出版　780円）

自分を責めずにはいられない人　片田珠美著

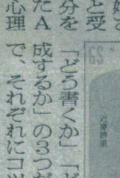


「自分はダメ人間」「私がもっとちゃんとしていれば……」と思うことは誰にでもある。同じような失敗や困難にぶつかって、早く立ち直る人もいれば、いつまでも引きずって、自身を傷つけてしまう人もいる。その差は罪悪感の強弱によって生まれる。本書は、その罪悪感の視点から、自分を責めずにはいられない人の心理メカニズムを分析した生き方テキスト。

両親の死に罪悪感を抱き、酒に溺れるB男と、結婚したB男から転嫁された罪悪感をきちんと受け止めようとして自分を責めるようになったA子、罪悪感を用いた心理コントロールで娘を縛り付ける母親などの実例を紹介。「自分はダメだ」と思うその要因を分析し、罪悪感との向き合い方など対処法を提示する。

（PHP研究所　780円）

必ず書ける「3つが基本」の文章術　近藤勝重著



職場の企画書やリポートなどのビジネスから、学校の作文・論文、ブログまで、あらゆる分野で活用できる文章術を伝授してくれるテキスト。

文章は「何を書くか」「どう構成するか」「どう書くか」の3つが基本で、それぞれにコツがあるという。まず、何を書くか。読み手の興味を引く文章を書くには、疑問に思った何らかのことを、「有−無（ウーム）」と考えることが大切だと説く。自分の中のもう一人の自分と、そのテーマについて「有りや」「無しや」と問答し、書くべき内容を深め、新しい発見を得ることが大切だと。その他、3つの基本に沿いながら、①「遠景を描く」②「近景を描く」③「心模様を描く」など、さらにさまざまなポイントを3段階で講義。

（幻冬舎　780円）

文庫 in pocket

成りすまし文学⑯

時限

鏑木蓮著　講談社文庫　648円

京都府の所轄の女性刑事が主人公

【話題】刑事の花形というと、やはり警視庁捜査1課。これまで紹介してきた女性刑事もほとんどが同課所属。本書の舞台は京都、しかも府警本部ではなく所轄の刑事が主人公という変わり種。

【あらすじ】片岡真子は京都府警五条署の新米刑事。母が京都・上七軒の花街で日本舞踊の師匠をしているという生粋の京女。幼い頃から大きくなったら芸子になるだろうと思っていたが、坂本龍馬の姉・乙女の存在を知って男社会に飛び込んで既成の価値観を変えてみたいと思い、男社会の牙城ともいうべき警察に入り、7年目にして念願の刑事課に配属された。

老舗の呉服屋の別邸で女性の首吊り死体が発見されたとの報を受け、真子は現場に向かう。発見者の呉服屋主人・向井はその女性に見覚えがないという。しかも遺体の首筋には扼殺痕が見られた。女性とその家の関係は何か。自殺に偽装した他殺なのか。真子たちは第一発見者の向井に的を絞り事情聴取を行うが、向井はのらりくらりとかわし、決め手のないまま時間切れとなる。

しかし女性の正体が明らかになると、この事件が過去に同邸で起きた失踪事件と深い関係があったことが判明。再び向井を召喚するが、そこには「時限（タイムリミット）」という大きな壁が立ちはだかっていた……。

【読みどころ】捜査で真子が組まされたのは警察庁から出向してきたキャリアの高藤警部。初対面でいきなり彼女の京都弁を揶揄され、気まずいスタートだったものの、徐々に高藤の論理的な思考にひかれるようになり、一方、高藤も真子の女性らしい直感を買うようになる。このコンビが複雑に仕組まれたミステリーを解きほぐしていく展開はなかなかにスリリング。続編とともに、映像化も期待される。〈石〉